

令和4年度

真岡市教育委員会
点検・評価報告書
(令和3年度対象)

真岡市教育委員会

はじめに

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月1日から施行されました。

その中で教育委員会は、毎年、教育行政の事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

このため本市教育委員会においても、教育委員会の活動及び主たる取り組みを市民の皆様にご公表し、ご意見をお寄せいただくことで、より良い教育の実現を目指していきたいと考えています。

令和 4 年 8 月
真岡市教育委員会

目 次

第1章 教育委員会活動	1
第2章 点検・評価結果	7
1. 確かな学力の育成	8
2. 心の教育と健やかな体づくり	10
3. 国際化に対応した教育	12
4. 生涯学習の推進	14
5. 青少年の健全育成	16
6. 生涯スポーツ・レクリエーションの振興	18
7. 文化芸術の振興と文化財の保護・継承	20
8. 国際交流の推進	22

第1章 教育委員会活動

1 組織体制（令和3年4月1日現在、8課合計）

教育委員	教育長1人、職務代理者1人、委員3人
教育委員会職員	教育次長1人 課長級以下職員 正規88人（指導主事等15人）、 会計年度任用職員37人 再任用 3人

2 委員会の活動概要

(1) 委員会の会議

議案審議のための定例会を11回、臨時会を1回開催しました。また、会議終了後、その時々話題について事務局職員（課長級以上）と意見交換を行いました。

定例会・教育委員協議会		議案件数	報告事項件数	その他
定例会	11回	30件	17件	20件
臨時会	1回	1件	1件	0件
教育委員会協議会	2回	0件	5件	3件

教育委員会審議案件（令和3年度）

会議	議案番号	件名	審議期日
第4回	14	令和3年度真岡市奨学生の決定について	4月28日
第5回	15	令和3年度真岡市一般会計補正予算について	5月20日
	16	真岡市成人式実行委員会設置要綱の制定について	
	17	真岡市立図書館協議会委員の委嘱について	
第6回	18	真岡市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について	6月29日
	19	真岡市立図書館協議会委員の委嘱について	
	20	真岡市少年指導センター運営協議会委員の委嘱について	
	21	真岡市民会館運営審議会委員の委嘱について	

第7回	22	令和4年度使用教科用図書の採択について	7月30日
第8回	23	令和3年度真岡市一般会計補正予算について	8月25日
	24	文化財の指定について	
	25	真岡市指定記念物の指定解除について	
	26	真岡市運動場設置、管理及び使用条例の一部改正について	
第9回	27	文化財の指定について	9月22日
	28	真岡市指定記念物の指定解除について	
第10回	29	真岡市教育委員会教育長職務代理者の指定について	10月1日
	30	第68回真岡市教育祭被表彰者の決定について	
第11回	31	真岡市立図書館協議会委員の委嘱について	10月21日
	32	第68回真岡市教育祭被表彰者の決定について	
第12回 (臨時)	33	第68回真岡市教育祭被表彰者の決定について	11月5日
第13回	34	令和3年度真岡市一般会計補正予算について	11月29日
	35	真岡市要保護及び準要保護就学援助費交付要綱の一部改正について	
	36	真岡市学校運営協議会規則の制定について	
令和4年 第1回	1	令和4年度教育予算の要求について	2月16日
	2	令和3年度真岡市一般会計補正予算について	
	3	真岡市教育委員会教育長の辞職につき同意を求めることについて	

第2回	4	真岡市教育委員会事務局処務規程の一部改正について	3月10日
	5	真岡市英語検定料及び漢字検定料助成事業実施要綱の一部改正について	
	6	真岡市文化財保護審議会委員の委嘱について	
	7	真岡市文化財調査員の委嘱について	
	8	真岡市スポーツ推進委員の委嘱について	

教育委員会報告案件（令和3年度）

会議	報告番号	件名	報告期日
第4回	15	GIGAスクール構想について	4月28日
第5回	16	「真岡の夏祭り」への中学生御輿の参加中止について	5月20日
第6回	17	令和3年第3回真岡市議会定例会一般質問について	6月29日
	18	真岡市生涯学習推進会議委員の委嘱について	
	19	真岡市青少年問題協議会委員の委嘱について	
	20	学校給食における放射性物質の確認方法の見直しについて	
第7回	21	子ども議会の開催について	7月30日
第8回	22	令和3年度真岡市教育委員会点検・評価報告書について	8月25日
	23	令和3年及び令和4年成人式について	
第9回	24	令和3年第4回市議会定例会一般質問について	9月22日
	25	緊急時におけるICT機器の活用について	

第11回	26	令和3年度第2回真岡市小中学校における働き方改革推進委員会について	10月21日
第12回 (臨時)	27	第68回真岡市教育祭被表彰者の辞退について	11月5日
第13回	28	令和4年度真岡市奨学生募集要項について	11月29日
	29	全教職員対象アンケート調査の結果について	
令和4年 第1回	4	市内小中学校の学力向上実践実例集について	2月16日
第2回	5	令和4年第1回市議会定例会一般質問について	3月10日
	6	令和4年度外国人児童生徒教育支援事業について	

教育委員会協議会報告案件(令和3年度)

協議会	報告番号	件名	報告年月日
第1回	30	令和3年第5回市議会定例会一般質問について	12月20日
	31	学校における新型コロナウイルス感染状況について	
令和4年 第1回	1	令和4年度教育国際交流について	1月26日
	2	GIGAスクール用端末の持ち帰り運用について	
	3	スクールバスの事故について	

(2) 総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が相互の連携を図り、より一層の民意を反映した教育行政を推進するため、市長が主催する総合教育会議が設置されました。

回数	会議事項	開催期日
1回	コミュニティ・スクールについて 学力向上の取組について	9月16日

(3) 研修等

事業名	期 日	場 所	内 容
関東甲信越静市町村 教育委員会連合会総 会・研修会	5月28日	千葉県 市原市	書面開催 (新型コロナウイルス感染症の感染 拡大防止の観点から書面開催と なった) 〈動画配信による視聴〉 講話「小人数学級によるきめ細かな 指導体制の計画的な整備」 講師 文部科学省初等中等教育局 財務課長 森友 浩史 氏
栃木県市町村教育委 員会連合会研修会	11月10日	宇都宮市 県庁研修館	講演「栃木県教育振興基本計画 2025について」 講師 栃木県教育委員会事務局 総務課主幹 新井 聡 氏
芳賀市町教育委員会 連合会教育委員研修 (先進地視察)	11月17日 ～18日	—	中止 (新型コロナウイルス感染症の感染 拡大防止の観点から中止となった)

(4)教育委員の学校訪問

学校の現状や教職員の意見等を聴取し、教育行政の充実を図るため、合同訪問に教育委員も同行しました。

訪 問 校	期 日	内 容
大内中央小	5月31日	授業参観
中村中	6月28日	//
長沼小	7月1日	//
真岡中	7月5日	//
中村小	10月20日	//
亀山小	10月25日	//
真岡小	11月9日	//

(5) 教育委員の関係行事等への出席

期 日	主 な 行 事 等	備 考
4月 1日	辞令交付式	
4月 8日	中学校入学式	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から出席者を限定したため、出席せず。
4月 9日	小学校入学式	同 上
9月～11月	小中学校運動会	同 上
10月 1日	市政功労者表彰式	同 上
10月 3日	真岡井頭マラソン大会	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止
10月30日	成人式（令和2年度分）	
11月 7日	真岡市音楽祭	
11月16日	真岡市教育祭	
1月 9日	成人式	
2月 4日	立志式	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から出席者を限定したため、出席せず。
3月 9日	中学校卒業式	同 上
3月18日	小学校卒業式	同 上
3月31日	辞令交付式	

第2章 点検・評価結果

政策「人づくり」～豊かなこころアップ!～

施策

1. 確かな学力の育成 — 主管課：学校教育課 —
(関係課：科学教育センター)
2. 心の教育と健やかな体づくり — 主管課：学校教育課 —
(関係課：学校給食センター、自然教育センター)
3. 国際化に対応した教育 — 主管課：学校教育課 —
(関係課：生涯学習課)
4. 生涯学習の推進 — 主管課：生涯学習課 —
(関係課：文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、プロジェクト推進室)
5. 青少年の健全育成 — 主管課：生涯学習課 —
(関係課：こども家庭課、学校教育課)
6. 生涯スポーツ・レクリエーションの振興 — 主管課：スポーツ振興課 —
(関係課：健康増進課、社会福祉課、いきいき高齢課、生涯学習課、都市計画課、国体・障害者スポーツ大会推進室)
7. 文化芸術の振興と文化財の保護・継承 — 主管課：文化課 —
(関係課：生涯学習課)
8. 国際交流の推進 — 主管課：くらし安全課 —
(関係課：市民課、学校教育課)

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 04月 04日

施策 No.	1	施策名	確かな学力の育成
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-81-9052
関係課名	学校教育課、科学教育センター		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒数	人	6638	6562				

施策の目標	すべての小中学校で、電子黒板やタブレット、デジタル教科書等のICT機器を活用した授業を展開し、学力の向上を図ります。 また、指導する教員は、校務支援システムの活用等により働き方改革を進めることで、子どもに向き合う時間を確保し、教育の質を高めます。
-------	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の学習の定着度をはかるため、とちぎっ子学習状況調査の教科合計平均正答率の県と真岡市との比較差の数値を使用する。 小中学校におけるICT機器の活用状況をはかるため、「真岡市ICT教育基本構想」に基づくICT機器導入率等を使用する。
-----------------------------	---

成果指標名	単位	平成30年度基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度目標値
小5とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の県との差 (国語、算数、理科)	目標値	+0.2	+0.3	+0.4	+0.5	+0.6	+0.7	+0.7
	実績値		実施無	+1.2				
中2 とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の県との差 (国語、社会、理科、数学、英語)	目標値	+0.8	+0.9	+1.0	+1.1	+1.2	+1.3	+1.3
	実績値		実施無	+2.0				
学習用PCの導入率	目標値	人/台	6.2	1	1	1	1	1
	実績値		1	1				
電子黒板の導入率 (普通教室・理科室)	目標値	%	100	100	100	100	100	100
	実績値		100	100				
電子黒板の導入率 (特別支援教室)	目標値	%	普通教室・理科室100% 特別支援教室71,4%	78.6	85.8	92.9	100	100
	実績値		73	75.4				
ICT支援員の配置	目標値	回/月	4 (ICTモデル校)	3 (全小中学校)	3 (全小中学校)	3 (全小中学校)	4 (全小中学校)	4 (全小中学校) 4 (全小中学校)
	実績値		2.6 (全小中学校)	3 (全小中学校)				
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、学校・家庭・地域と連携して、人間性豊かな子どもを育成する。 行政は、学力向上を図るための教育環境の整備を推進する。
-------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

とちぎっ子学習状況調査の結果より、学力に関する成果指標の実績値については、

・小5 とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の県との差：+1.2ポイント

・中2 とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の県との差：+2.0ポイント

であった。今回の調査の結果、調査対象となった全学年全教科において県の正答率を上回っており、これまでの学力向上についての取組の成果が見られる。

ICT機器の整備については、国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策において児童生徒1人1台端末の整備スケジュールの加速化が示されたことに伴い、令和2年度末までに1人1台のタブレット整備を完了させた。電子黒板については、普通教室・理科室について全教室に整備を完了しており、今後は特別支援教室への整備を進める。ICT支援員の配置については、全校に年間36回(月平均3回)の支援を実施した。さらに、配備した1人1台端末のさらなる活用に向けて、高速大容量の通信ネットワークを整備した。

学力向上に向けた令和3年度の取組状況は以下のとおり

- ・児童生徒1人1人の個性を伸ばし、学習効果を高めるため、複数担任制のための非常勤職員を小・中学校全校に配置している。
- ・真岡市学力向上推進研修会や教員研修会を開催し、各学校の検証改善サイクルの構築と教職員の資質・能力の向上を図った。
- ・「教職2～4年目教員支援事業」「学力向上指導員派遣事業」「魅力ある学校づくり事業」等での学校訪問を通して、授業改善に対する助言を個別に行った。
- ・児童生徒の学力向上に結び付いた市内小中学校の取組について「学力向上実践事例集」を作成して全校に配布し、指導力のさらなる向上を図った。
- ・真岡市総合学力調査の結果と連携したAIドリルを導入し、1人1台端末を活用した児童生徒1人1人に合わせた学習が可能となった。
- ・英語の専科教員を小学校5校、算数等の専科教員を小学校3校に配置している。
- ・理科担当教員の資質向上と小学校の理科専科教員の育成を図るため、指導主事を学校に派遣して「理科担当者研修事業」を実施した。
- ・「理科学習に関するアンケート」より教員が指導する上で苦手意識のある実験・観察を絞り込み、その実験・観察を自信を持って指導できるよう、年10回の「理科実技研修会」を企画し、実施した。
- ・理科の授業を円滑に進められるよう、実験・観察のポイントを記載した「理科指導資料集」を作成し、各校の理科担当者に配布した。
- ・利用希望のあった学校に対し、プラネタリウムを用いて、教科書の内容に沿った天体に関する学習プログラムを行った。
- ・学校図書館の充実と児童の読書活動の推進を図るため、全ての小中学校に6名の専任司書を巡回配置し、読書教育の質的な向上に取り組んだ。
- ・現場の教職員が抱える課題を把握し、今後の人材育成や教育施策の検討に活用するため、本市初となる市内全教職員対象のアンケートを実施した。

今後は、

- ・ベテラン教員の比率が今後低下し、若手の割合が高くなる予測を踏まえ、若手教職員の人材育成を図る。
 - ・感染症等による緊急の学校・学級休業においても子どもたちの学びを保障する体制を整える。
 - ・教職員の働き方改革を進め、教員が子どもたちと向き合う時間を確保するためのさらなる取組を行う。
- 等の課題について検討し、児童生徒のさらなる学力向上を図っていく。

(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

令和4年度の全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査、真岡市総合学力調査の結果について調査分析し、その結果のフォローアップを重視することで、確かな学力の定着を図り、学力の向上を目指していく。また、学力向上推進研修会や指導主事の学校訪問による授業支援等を行い、教職員の指導力向上を図るとともに、複数担任制のための非常勤職員を配置し、個別指導の充実に取り組むことで、児童生徒の学力向上を図る。

またこれまで同様に、各学校の実態に合わせた可能な教科担任制の導入を推進しつつ、どの学校においても一定の教科担任制が実施できるよう、国及び県に対して教職員の定数の改善を要望する。

引き続きICT教育推進校とICT導入重点校を指定し、1人1台端末の効果的な活用方法を研究すると同時に、ICT活用に関する教員のスキル向上を図る。特に緊急時の対応をより円滑に実施できるよう、また、学習用端末を活用した学習のさらなる充実を図っていくため、端末の常時持ち帰りの実施について検討する。さらに、ICT活用に関する教員のスキル向上を推進するための教員研修の実施、ICT支援員との連携の強化を図る。

引き続き「理科担当者研修事業」ならびに「理科実技研修会」を実施し、理科担当教員の資質向上と小学校の理科専科教員の育成を図る。

全教職員対象のアンケートにより抽出された教育課題について具体的な施策について検討し、若手教職員サポートするための校内での取組やアイデアをまとめた事例集を作成する等、若手教職員の人材育成を図る。

教職員の校務支援システム等の活用により、教職員の業務効率化を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保し、教育の質的向上を図る。また、勤怠管理システムの導入に向けた検討等、さらなる教職員の働き方改革推進に向けた施策について検討する。

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 04月 04日

施策 No.	2	施策名	心の教育と健やかな体づくり
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-83-8181
関係課名	学校教育課、給食センター、自然教育センター		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒	人	6 6 3 8	6 5 6 2				

施策の目標	<p>道徳教育や集団活動を通して、生命や人権を尊重する心、人への思いやりの心等を育む。 正しい食習慣や運動習慣を身に付けながら、健やかな体づくりを進め、基礎体力を向上させる。</p>
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<p>いじめや不登校等、児童生徒が抱える諸課題の改善状況を図るため、スクールソーシャルワーカーの相談対応により問題を抱えた児童生徒に改善が見られた児童生徒数を使用する。 児童生徒の体力の向上や運動習慣の現状を把握するため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (小学校5年生と中学校2年生対象) を使用する。</p>

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
相談を受け改善の見られた児童生徒	目標値	—	16	17	18	19	20	20
	実績値		14	24				
新体力・運動能力調査 (80点満点)	目標値	49.2	49.7	50.2	50.7	51.2	51.7	51.7
	実績値		実施なし	48.9				
「運動が好き」と答えた児童生徒の割合	目標値	82.5	83.0	83.5	84.0	84.5	85.0	85.0
	実績値		実施なし	84.1				
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民は、自分の行動に責任をもって、子どもたちに社会のルールを伝え、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむ。 行政は、生命や人権を尊重し、人への思いやりの心や集団生活のルールを学ぶ機会をつくり、運動やスポーツを楽しめる環境を整える。</p>
-------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

・平成31年度にスクールソーシャルワーカーを配置し、本年度で3年目となる。児童生徒に関わる問題は、多様化、複雑化しており、専門的な立場から、家庭への働きかけだけでなく、福祉事務所・児童相談所と連絡・連携をとっている。

令和3年度は、全小中学校への巡回相談、保護者からの電話相談、学校の要請による家庭訪問等を実施し、問題解決のために継続的に関わった児童生徒は75人で、そのうち改善が見られた児童生徒は24人であった。相談へのニーズが高まり、関わる家庭が増えているが、ケースを適切に見極め、関係機関と連携を図っている。改善には時間を要する事案が多いが、保護者や学校の安心に繋がっている。

・令和3年度全国体力・運動能力について、基準値よりも低下している。これは、コロナ禍による活動の制限により、十分な運動機会や運動量の確保ができなかったことによるものと考えられる。そのような中でも、真岡市体力向上プログラムを活用した取組だけでなく、県のチャレンジランキングを通して目標を達成する喜びを味わわせたり、児童生徒主体の活動をさせたりするなど、各学校が工夫して運動する機会を設定したことで、運動習慣等調査において、運動好きの児童生徒の割合が、ほぼ維持できている。

【参考】令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 49.9点
「運動が好き」と答えた児童生徒の割合 84.8%

令和3年度の取組

・障がいのある児童生徒に対して、学校における日常生活動作の介助や学習活動のサポートを行う特別支援教育支援員を小学校に6人、中学校に2人配置している。

・不登校や特別支援教育等に関する相談が増加していることを受け、教育相談の充実を図るため、本市においては、臨床心理士（心理相談員）2名やスクールソーシャルワーカー1名の配置の他、大規模小学校3校（真岡小・真岡東小・真岡西小）には学校支援相談員を配置している。

・不登校及び学校不適応傾向にある児童生徒に対し、専門的な指導を行うために適応指導教室（もおかライブリー教室）を設置している。

・自然教育センターでの小学校3年生から6年生（5年生：とぎ海浜自然の家を利用）及び中学1年生、2年生までを対象とした、自然の中での集団宿泊体験活動を通して、「心豊かでたくましく生きようとする児童生徒」の育成を目指し各校の創意工夫のもと特色ある活動の実施について、令和2年度に続き令和3年度も中止とした。それに伴い、自然教育センター職員が各学校の要請に応じて学校を訪問し、自然教育センター活動プログラムによる体験学習のサポートを継続して実施した。

・第一・二学校給食センターでは、学校給食を通して、児童生徒の健康の保持増進と食育の推進を図るとともに、健全な発育を促すための給食内容の充実にも努めた。

・食物アレルギーへの対応としては、食物アレルギー献立材料表やアレルギー特定物質有無（チェック表）の配布と食物アレルギーにおける「エビベン」使用を含めた教職員研修を実施している。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を受け、コロナ禍において感染防止対策を講じながら進める体力向上の取組と児童生徒への運動の習慣化を図るための対策を検討する必要がある。

また、自然教育センターでの集団宿泊体験活動が2年続けて実施できず、各学校での体験学習をサポートしてきたが、コロナ禍においても集団宿泊体験活動が実施できる方法を検討する必要がある。

(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

・不登校及び特別支援教育等に関する相談に、高度で専門的な視点から適切なアドバイスができる心理相談員、スクールソーシャルワーカー、学校支援相談員の配置を継続実施していく。なお、心理相談員の業務が増加しているため、増員する必要がある。

・児童生徒の体力向上に関しては、「真岡市体力向上プログラム」の各校における実践を促す。また、エキスパートティーチャアの派遣を通して、各校の体力向上に対する課題解決に向けた取組を推進する。さらに、真岡市体力向上推進委員会(参加者：学校教職員9名、エキスパートティーチャー1名、市教委3名)において、家庭と連携した運動の習慣化を図る取組を作成し展開していく。

・障がいのある児童生徒に対し、日常生活動作の介助や、発達障がいのある児童生徒の学習サポートを行うために、引き続き特別支援教育支援員を配置していく。

・自然教育センターでの宿泊学習は、新型コロナウイルス感染対策を講じながら集団宿泊体験活動を実施する。合わせて、活動プログラムを各学校の状況に合わせて工夫、改善し、より多くの学校で実施できるよう活動プログラム集を配布し、体験学習の推進を図る。

・望ましい食習慣の形成を図るため、学校給食センターの栄養教諭が各小中学校に出向き食育に関する指導を行う。令和4年度は、学校訪問を年間80回、総授業時数157時間実施する。

・学校給食センターの整備に関しては、児童生徒が心身共に健やかに成長し、安全でおいしい給食を提供するため、令和3年度から2か年で第一給食センター整備基本設計及び実施設計業務を実施し、建替事業を推進していく。

・食物アレルギーをもつ児童生徒に食物アレルギー対応食を提供できるよう、新しい給食センターには、食物アレルギー対応専用調理室を整備する予定である。

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 04月 04日

施策 No.	3	施策名	国際化に対応した教育
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-81-9052
関係課名	学校教育課、生涯学習課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒数	人	6,638	6,562				

施策の目標	<p>社会環境が大きく変化しグローバル化が一層進展する中で、国際的な視野を持ち、豊かな語学力やコミュニケーション能力を身につけた児童生徒を育成します。 また、国籍や文化の違いに関わらず、互いに支え合い共に生きていく力を育みます。</p>
-------	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡市総合学力調査 (英語) の平均正答率における全国比との差を使用する。 ・全国学力・学習状況調査「英語が好き」と答えた児童の割合を使用する。 ・とちぎっ子学習状況調査「英語が好き」と答えた生徒の割合を使用する。
-----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
<small>中学2年生の真岡市総合学力調査 (英語) の平均正答率における全国比との差</small>	目標値		-1.3	-0.3	0.7	1.7	2.5	+2.5
	実績値	-2.3	実績無	3.6				
<small>全国学力・学習状況調査「英語が好き」と答えた小学6年生の割合</small>	目標値	— (項目なし)	64.0	68.0	72.0	76.0	80	80%
	実績値		実績無	75.1				
<small>とちぎっ子学習状況調査「英語が好き」と答えた中学2年生の割合</small>	目標値	59.5	63.6	67.7	71.8	75.9	80	80%
	実績値		実績無	59.0				
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民は、国際的な視野を育成し、相互理解を深めるため、異文化交流の場等に積極的に参加する。 行政は、国際交流や英語教育の充実にに向けた環境整備や指導者の人材確保に努める。</p>
-------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

令和3年度真岡市総合学力調査およびとちぎっ子学習状況調査の実績値によると、令和元年度の中学2年生の真岡市総合学力調査（英語）の平均正答率における全国比との差 +1.8ポイントからさらに向上しており、英語の学力が向上していることがわかる。

しかし、とちぎっ子学習状況調査「英語が好き」と答えた中学2年生の割合は、令和元年度65.4%と比較して6.4%減少しており、今後中学校において生徒が英語への興味関心を高め、英語を用いたコミュニケーションを楽しむための取り組みにさらに力を入れていく必要がある。

また、今年度より新たに質問項目が設けられた、全国学力・学習状況調査での「英語が好き」と答えた小学6年生の割合については、75.1%の児童が肯定的な回答をしていることから、令和2年度からの新学習指導要領全面実施による小学校5、6年生の外国語活動が教科化に向け、英語指導力向上専門員の配置等、教科化がスムーズに導入できるための取組を行ってきた成果が見られる。

令和3年度の国際理解教育・英語教育に関する取組状況は以下のとおり。

- ・外国語活動支援員(JTE)および英語指導助手(AET)、英語指導力向上専門員を活用し、英語教育の充実を図った。
- ・英語検定料・漢字検定料の助成により、英語能力および日本語能力の育成を図った(英語検定料助成対象者:247名、漢字検定料助成対象者:60名)。
- ・教育国際交流については、中学校6校で姉妹校を締結済。新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航および受け入れはいずれも中止としたが、オンライン等を活用した交流を推進した。二宮地区3中学校(長沼・久下田・物部中学校)の姉妹校締結に向け、オーストラリアのハーヴィー・シニアハイスクールとのオンライン交流を実施した。
- ・小学校5～6年生を対象としたイングリッシュ・サマーキャンプについては、新型コロナウイルス感染症対策のため拡大防止のため宿泊形式から日帰りに変更して実施した。
- ・高校生の海外留学支援については、令和3年度の応募はなかった(令和元年度は9名・令和2年度は0名)。
- ・外国人児童生徒拠点校に設置されている日本語学級において日本語指導を必要とする外国人児童生徒に対し、2人の日本語指導助手(ポルトガル語・スペイン語通訳)を配置した。
- ・学校から外国人保護者への多言語によるメール送信システム「E-Traノート」の実証実験に日本語教室拠点校8校が参加し、導入に向けた検討を行った。
- ・外国人生徒と保護者向けの「多言語による進学ガイダンス」を市独自で初めて実施し、外国人生徒のスムーズな高校進学への支援体制を整えた。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

外国語活動支援員(JTE)および英語指導助手(AET)、英語指導力向上専門員の効果的な活用により英語教育を充実させ、引き続き英語力ならびにコミュニケーションの能力の向上を図る。

英語検定料・漢字検定料については、漢字検定の助成対象をすべての級に拡大するとともに申請方法を郵送のみから窓口による受付も可とし、制度を利用しやすくすることで、児童生徒の英語能力および日本語能力のさらなる育成を図る。

姉妹校交流については、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況にあることから、今後もオンライン等を活用し、姉妹校との関係性の維持向上を図る。また、令和4年度にオーストラリア ハーヴィー市と本市との友好都市締結が予定されていることから、友好都市との二宮地区3中学校の姉妹校締結に向けた具体的な取組を進めて行く。高校生の海外留学支援についても、引き続き継続する。

外国人保護者への多言語によるメール送信システム「E-Traノート」の実証実験の結果を踏まえ、市内小中学校への導入と積極的な活用を推進し、外国人児童生徒および保護者へのきめ細かな支援体制を整える。外国人生徒と保護者向けの「多言語による進学ガイダンス」については、開催時期を早めることで高校進学に向けた準備を余裕を持って行えるよう支援する。

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 06月 10日

施策 No.	4	施策名	生涯学習の推進
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7150
関係課名	文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、プロジェクト推進課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78, 874	78, 144				

施策の目標	市民が生涯にわたり自主的、積極的に学習に取り組み、市民一人一人が学んだことを社会生活に活かす等、生きがいを持って心豊かに生活できるよう、支援の充実を図ります。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に関する講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課、図書館、文化課、スポーツ振興課、自然教育センター、科学教育センター、で行った講座数の合計とする。 出前講座数及び参加延べ人数は、生涯学習課での集計結果とする。 図書館利用者数及び貸出冊数は、真岡市図書館、二宮図書館及び西分館図書室の集計結果とする。 まちのステーション整備は「真岡市新庁舎周辺整備基本計画」の整備スケジュールと事業の進捗状況とする。
-----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市民講座数	目標値	203	206	210	213	217	220	220
	実績値		99	138				
市民講座参加延べ人数	目標値	14, 381	14, 505	14, 629	14, 752	14, 876	15, 000	15, 000
	実績値		3, 625	8, 153				
出前講座数(実施講座数)	目標値	173	178	184	189	195	200	200
	実績値		48	55				
出前講座参加延べ人数	目標値	4, 879	4, 903	4, 927	4, 952	4, 976	5, 000	5, 000
	実績値		946	1, 234				
まちのステーション整備	目標値	基本構想策定	事業者募集	契約・設計	設計・建設工事	建設工事	オープン	事業化
	実績値		事業者募集等	契約・設計				
図書館利用者数(3施設)	目標値	241, 856	243, 485	245, 114	246, 742	248, 371	250, 000	250, 000
	実績値		133, 910	144, 649				
図書館貸出冊数	目標値	287, 152	289, 722	292, 291	294, 861	297, 430	300, 000	300, 000
	実績値		236, 635	243, 033				

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 市民は、生涯にわたり自主的・積極的に生涯学習に取り組む。 行政は、市民や自主団体の生涯学習活動を支援するため、学習機会や学習の場の提供、学習環境の整備に努める。
-------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

・市民・出前講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの講座等を中止したため、令和2年度の実績は大幅に減少している。3年度は再開できたものもあったが、コロナ禍以前の状況までには至らなかった。

・図書館についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等を実施したため、実績は減少しているが、利用人数の減少幅に比べ、貸出冊数の減少幅は小さく、コロナ禍で外出等が制限される中、読書等への需要はむしろ高まっている可能性もあると思われる。また、学習室の閉鎖や利用時間制限等も利用人数が減った理由として考えられる。

・まちのステーション(複合交流拠点)整備については、事業者選定委員会により選定された事業者と、市議会の議決を受けて契約を締結し、基本設計に着手した。

生涯学習に係る事業や社会教育施設の運営については、多くの人を対象とするため、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける結果となり、市民に対し継続的な学習機会と場の提供を図り支援するという目標達成は不十分であった。

しかし、コロナ禍で生活様式が変化中、市民の学習への意欲や需要は高まっている可能性もあるため、こうした状況下においても、少しでも多くの機会と場の提供を図ることが課題となる。

また、まちのステーション(複合交流拠点)整備については、施設整備のみならず、開設に向け様々な関連業務等の計画準備が必要となる。

(2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

・講座等については、これまで対面による実施がほとんどであったが、新型コロナウイルス感染症や高齢化等を鑑み、オンライン、配信等の実施手法を調査研究し、機会の提供を確保していく。また、今後更なるコンテンツ充実のためには、指定管理者や外部委託等の活用も検討していく。なお、対面による講座の開催についても、コロナウイルス感染防止をふまえて1回の参加人数を減らし開催回数を増やす等の対応をして実施していく。

・図書館については、令和3年1月に電子図書館を導入し、令和3年度末でコンテンツ数5,120点、貸出し回数2,642回であり、引き続き電子図書館についてPR、充実を図っていく。

・施設運営においては、社会教育施設の多くは築30年以上が経過しており、その機能を適正に保ち安全で快適な施設を提供していくためには、経年劣化に対する修繕やバリアフリー化等の時代に応じた改良が必要であり、今後多くの費用が見込まれるため、今後「真岡市公共施設再配置計画」において、施設の集約等についても積極的に検討していく。

・まちのステーション(複合交流拠点)整備については、「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」の機能を併せ持つすべての世代の交流の場となる複合交流拠点として令和6年度中の開館を予定されているが、関係部署との連携を図り、新施設への図書館機能移転や既存施設(二宮・真岡西)を含めた新たな管理運営体制の構築に向け準備を進めていく。

施策評価シート(令和3年度の振り返り、総括)

作成日 令和4年 06月 10日

施策 No.	5	施策名	青少年の健全育成
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7152
関係課名	こども家庭課、学校教育課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民の未成年(20歳未満の市民)(各年4月1日住基)						
対象指標名	単位	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和6年度見込
市内の未成年の数	人	14,223	13,843				

施策の目標	将来に夢と希望を持ち、豊かな感性と創造性を養いながら心豊かでたくましい青少年を育成します。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年の不良行為を市が指導した人数」は、指導員等の街頭指導による集計結果とする。 ・「警察に補導された青少年の数」は、真岡警察署が作成した生活安全警察年鑑の非行少年補導状況の数とする。 ・「子ども会育成会加入率」は、小・中学校PTA会員数に占める単位育成会会員数の割合とする。 ・高校生の海外留学支援は累計数とする。
----------------------------	---

成果指標名	単位	平成30年度基準値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和6年度目標値
青少年の不良行為を市が指導した人数	目標値	17	16	14	13	11	10	10人以下
	実績値		0	0				
警察に補導された青少年の数	目標値	105	102	99	96	93	90	90人以下
	実績値		110	65				
子ども会育成会加入率	目標値	77.2	77.8	78.3	78.9	79.4	80	80
	実績値		73.4	73.1				
高校生の海外留学支援(累計数)	目標値	6	15	24	32	41	50	50人以上
	実績値		15	15				
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、地域において青少年の健全育成の環境整備に努める。 ・行政は、地域と共に青少年の健全育成を図るための支援や青少年を取り巻く環境の整備に努める。
-------------------------	--

② 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

・青少年の不良行為を市が指導した人数は、令和3年度目標値14人以下に対し、無しであった。新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言措置による不要不急の外出自粛の影響等と指導センターのパトロールの時間帯が午後2時から午後7時であることも理由として考えられる。また、警察に補導された青少年の数も、令和3年度目標値99人以下に対し、65人と減少している。内訳は、43% (28人) が深夜徘徊、40% (24人) が喫煙での補導となっている。

・子ども会育成会加入率は、令和3年度目標値78.3%に対し、73.1%であった。児童生徒数の減少化に伴い、単位子ども会育成会数も減少 (平成30年度126単位⇒令和3年度114単位) したことや、共働き世帯の増加に伴う保護者の負担増、新型コロナウイルス感染防止対策のため、市子ども会育成会事業が中止となったことなどが要因と考えられる。

・平成30年度から実施している多様な分野でリーダーシップを発揮できる人材育成のため高校生の海外留学支援事業は、令和3年度目標値24人に対し、15人であった。令和2年度、3年度はそれぞれ0人であり、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航が制限されたことが要因と考えられる。新型コロナウイルス感染症が収束しない限り、安全な海外渡航が担保されないため、留学支援に対する在り方が課題となる。

平成30年度 真岡市中学生リーダー研修において海外留学をした高校生と中学生が交流、意見交換をした。

令和元年度 「真岡っ子をみんなで育てよう公演会」の1部において市内小学生・中学生とその保護者を対象に高校生海外留学体験発表会を実施した。

令和2年度 いちごテレビで令和元年度の高校生海外留学体験発表会を放映した。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

・青少年の非行防止は長期的展開が重要であり、指導員等による街頭巡回を継続実施するとともに、学校、警察等関係機関などの関係者と協力して青少年を見守り、指導していく体制の強化に努める。また、人生のうちでもっとも大切な人間形成期における家庭教育の重要性を認識し、積極的に子育てを考えていくために、引き続き家庭教育学級・思春期学級を開設し、子育ての不安解消に努めるとともに、家庭教育通信を発行し、啓発活動の推進を図る。

・子ども会育成会活動を活発にするため、市子ども会育成会連絡協議会と連携し、保護者や子どもに対する研修会を実施するとともに、加入促進のため、広報紙を作成し、学校を通して配布するなど引き続きPR活動を行う。また、市子ども会育成会連絡協議会において、各地区子ども会育成会で実施している祇園祭、卒業生を送る会などの事業内容や方法等の意見交換を行い、情報の共有化に努める。また、参加者が少なく、単位子ども会では実施できない事業の合同開催など、事業の持ち方について検討する。

・コロナ禍において海外留学に行けない状況が続いているが、安全が確保され、海外に渡航できる状態になった際は、留学希望者が増加することも考えられるため、募集掲載や近隣高等学校に申請書を送付するなど引き続きPR活動に努める。なお、新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少し、海外渡航の制限が緩和されてきていることから、今後も国の動向を見ながら対応を判断していく。

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 06月 09日

施策 No.	6	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	健康増進課、社会福祉課、いきいき高齢課、生涯学習課、都市計画課、国体・障害者スポーツ大会推進室		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,144				

施策の目標	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力ある生活を実現します。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	市民意向調査の結果及びスポーツ振興課の集計により把握する。								
成果指標名		単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市スポーツ施設利用者延人数	目標値	人	575,625	584,500	593,400	602,200	611,200	620,000	620,000
	実績値			364,983	447,338				
何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	目標値	%	55.5	56.4	57.3	58.2	59.1	60.0	60.0
	実績値			60.3	59.5				
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民はスポーツ・レクリエーションを自主的に行い、日頃から体を動かすよう心掛けます。 行政はスポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と、施設等の環境整備の充実に努めます。
-------------------------	--

②. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・スポーツ施設の利用者については、スポーツを通じた健康増進や仲間づくりへの関心が高くなっているものの、引き続きコロナ禍の影響により、令和3年度の利用者延人数の目標593,400人に対し約447,000人であった。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策として、施設の休館や利用制限等を実施した影響はあったが、令和2年度と比較すると利用者が約2割ほど増加するなど、目標値との差は縮小している状況となっている。
- ・何らかのスポーツ・レクリエーションを行った市民の割合が、目標値を上回る59.5%となったのは、コロナ禍で密を回避できる手軽に行えるウォーキング、ジョギングなどが増えたことによるものと思われる。

(2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況のなか、コロナ禍の前のような社会経済情勢になるまでは、目標達成は難しい状況であるが、感染症対策を徹底し利用者が安全安心に利用できる環境整備を促進していく。
- ・子どもの頃からいろいろな機会ですポーツに触れ、親しむことが必要であることから、スポーツ少年団活動の支援の充実を図っていく。
- ・親子、家族など世代間で参加できる教室、各種イベントを開催し、スポーツに取り組むきっかけづくりに繋げられるよう、機会の充実を図っていく。
- ・スポーツ・レクリエーション活動の拠点となる総合運動公園の施設整備を推進していく。

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 04月 04日

施策 No.	7	施策名	文化芸術の振興と文化財の保護・継承
主管課名	文化課	電話番号	0285-83-7732
関係課名	文化課 生涯学習課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	1) 市民 2) 文化財の管理者・継承団体等						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,995	78,592				
指定・登録文化財数	件	226	226				

施策の目標	文化芸術活動の推進により、市民だれもが文化芸術に触れ親しみ学ぶ機会を拡充する。 文化財の適切な保存管理と伝統文化の継承をする。
-------	--

成果指標設定の 考え方及び 指標の把握方法 (算定式など)	文化芸術活動推進について ・市民会館利用者・市民会館利用人数は、指定管理者月例報告より把握する。 ・文化協会会員数は、総会時加入団体から報告された人数。 ・久保記念観光文化交流館美術品展示室と久保資料室、まちかど美術館はそれぞれ入場者数とする。 (文化財の保護・継承については、指定・登録文化財や地域の伝統文化など既にあるものを保存継承していくことが目標であるため、総合計画策定において個々の成果目標は設定されなかった。)
--	---

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市民会館利用人数	目標値	89,068	90,856	92,642	94,428	96,214	98,000	98,000
	実績値		15,657	35,423				
文化協会会員数	目標値	2,130	2,144	2,158	2,172	2,186	2,200	2,200
	実績値		1,975	1,749				
文化協会加入団体数	目標値	131	131	133	135	137	140	140
	実績値		118	102				
久保記念観光文化交流館 美術品展示館入場者数	目標値	16,553	17,242	17,931	18,620	19,309	20,000	20,000
	実績値		2,909	6,920				
久保記念観光文化交流館 久保資料室入場者数	目標値	17,138	17,710	18,282	18,854	19,426	20,000	20,000
	実績値		3,137	7,246				
まちかど美術館入場者数	目標値	2,579	2,661	2,748	2,832	2,916	3,000	3,000
	実績値		386	761				
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に 向けての 住民と行政との 役割分担	・市民は、自ら積極的に文化芸術に興味を持ち活動する。地域の歴史や文化への理解を深め、文化財を保護継承することの大切さを認識する。 ・行政は、文化芸術活動の企画運営、環境整備を行う。また、文化活動を担う人材、文化団体の育成支援を行う。文化財所有者（管理者）等が実施する保存管理や事業について指導助言を行い、文化財の保護や啓発機会を提供するための環境を整備する。
-------------------------------------	--

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・市民会館利用人数については、令和2年度と比較すると約2.3倍に増加したが、目標値の約38%にとどまった。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年4月から10月まで、入館者定員の上限を50%に制限したこと、8月初旬から緊急事態宣言期間にかけて約2カ月は、新規予約停止及び午後8時までの利用制限をしたこと等が主な要因と考える。今後も新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視し、クラスター等を発生させないよう管理運営を徹底していくことが必要である。
- ・文化協会会員数、加入団体数については、減少傾向にあるが、従前より価値観の多様化や、高齢化の進展により会員数・団体数が減少傾向にあったことに加え、新型コロナウイルス感染症のまん延で団体としての活動や練習ができなくなった等の理由により、団体の解散や文化協会退会が相次いで生じた。課題としては文化協会への新規加入対策や加入団体の情報発信の方策である。
- ・久保記念観光文化交流館美術品展示館・久保資料室の入場者数については、令和2年度と比較すると、美術品展示館が約2.4倍、久保資料室が約2.3倍と増加したが、美術品展示館は目標値の約39%、久保資料室は目標値の約40%にとどまった。両施設とも、新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言期間における約40日の休館や、開館時間の2時間短縮、入場者数の制限等が主な要因と考える。入場者数の増加対策が課題である。
- ・まちかど美術館の入場者数については、令和2年度と比較すると約2倍に増加したが、目標値の約28%にとどまった。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言期間における約40日の休館や、開館時間の2時間短縮、入場者数の制限等が主な要因と考える。入場者数の増加対策が課題である。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

- ・市民会館については、指定管理者と連携を密にし、指定管理者が有する企画・運営力を活用し魅力ある事業を実施する。指定管理者と定期的に会合を持ち、管理運営上の課題を共有したうえ改善対策を実施することによって、利便性を向上させ市民が利用しやすい市民会館とすることで、市民会館を利用した市民の文化芸術の振興を図る。新型コロナウイルス感染症予防のガイドライン遵守の徹底を図り、安心して多くの発表会やイベントに利用されるように努める。
- ・文化協会新規加入対策として、市内で活動している文化協会未加入の文化団体等に対し、文化協会への入会を勧誘する。文化協会のホームページを拡充し、各団体の活動内容や会員募集案内を掲出するなど、文化協会の各団体の情報発信を支援していく。
- ・久保記念文化観光交流館美術品展示室・久保資料室については、魅力ある企画展やワークショップの開催等により入場者を増やすだけでなく、訪れた人が市内の施設を回遊できるよう散策マップを作成するなど、まちかど美術館等の施設と連携を深める。
- ・まちかど美術館については、魅力ある企画展やワークショップの開催等により入場者を増やすとともに、他の施設との連携を深める。3階の市民ギャラリー貸館制度について、各種市民団体等に周知し利用促進を図る。

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 06月 20日

施策 No.	8	施策名	国際交流の推進
主管課名	くらし安全課	電話番号	0285-83-8719
関係課名	くらし安全課、市民課、学校教育課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民 (在住外国人住民含)						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,144				
外国人住民数	人	3,486	3,480				

施策の目標	外国人住民と日本人住民が国籍や言葉の壁を越えて、主体的に国際交流を深め相互の生活習慣や文化を理解、尊重し合い、共に地域社会の一員として安心して暮らせるまちとなっています。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を行っている市民の割合は、市民意向調査を使用する。 姉妹校締結中学校数は、締結校数とする。 国際交流を行っている団体数は、国際交流協会の団体会員、及び交流活動に参加した団体数とする。 外国人相談件数は、外国人相談窓口や電話等での相談件数と庁内各課の窓口での通訳補助の件数とする。(1人で複数の相談あり)
-----------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
国際交流を行っている市民の割合	目標値	14.0	14.2	14.4	14.6	14.8	15.0	15.0
	実績値		13.1	14.7				
姉妹校締結中学校	目標値	6	6	6	6	6	9	9
	実績値		6	6				
国際交流を行っている団体数	目標値	20	21	22	23	24	25	25
	実績値		10	10				
外国人相談件数	目標値	7,222	7,277	7,333	7,388	7,444	7,500	7,500
	実績値		7,125	5,223				
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民の役割：国際理解に努め、積極的に国際交流に関わります。</p> <p>行政の役割：国際交流を行う団体との連携を図り、交流の場を拡充します。 多言語による相談体制を充実させ外国人住民が安心して暮らせる環境を整備します。</p>
-------------------------	---

2. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

1. 国際交流イベントの開催
新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度はこれまで実施してきた様々なイベントが全て中止となったが、令和3年度は「災害時外国人サポートボランティア養成講座」、「益子焼手びねり体験講座」、「筆ペン講座」を開催し延べ65人が参加しており、「国際交流を行っている市民の割合」が1.6%増加した要因の一つと考えている。国際交流イベントは、相互理解を深める大切な機会であり、更に感染対策をしながらイベントを開催する必要がある。
2. 多言語による相談支援
ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語による日常生活相談や庁内各課の窓口での通訳補助を行ってきたが、外国人相談件数は、昨年より27%減少した。相談内容では、ワクチン接種やワクチンパスポートの申請などコロナに関する相談が増加する一方、市民課の窓口で外国語の各種申請書の書き方を掲示したこと、こども手当の現況届が郵送できるようになったこと、税金の分納相談によりコンビニ納付が増えたこと等により、外国人相談窓口を介さなくても外国人が申請等が可能な態勢が整えられてきたことにより、相談件数が減少したものと考えている。外国人の人数は、昨年より6人減少で大きな増減はないが、引き続き日常生活や社会活動の変化等に対応した丁寧な相談が必要である。なお、その他の言語による相談は、ポケトーク（多言語通訳機）を利用して行った。
3. 国際交流を行う団体との連携
「国際交流を行っている団体数」は、令和2年度と変わらず目標を大きく下回っている。新たに国際交流を行う団体が発足する情報はないため、既存の国際交流団体との連携を継続する。
また、日常生活や社会活動の変化等に伴い、日本語教室の充実や日本語教室の指導者のスキルアップが求められる。
4. 中学校の姉妹校交流を通じた国際交流を担う人材育成
「姉妹校締結中学校」6校は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、海外渡航、及び受入は中止となったが、オンライン等を活用した交流を推進した。二宮地区3中学校（長沼・久下田・物部中学校）の姉妹校締結に向け、オーストラリアのハーヴィー・シニアハイスクールとのオンライン交流を実施した。
国際交流を担う人材を育成するには、更にICTを活用したオンラインによる日常的な交流機会を多くの生徒に与えるとともに日常生活で外国語に触れる機会を与えるような取組みが求められる。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

1. 日本人と外国人の交流機会として、感染対策を実施しながら「きもので街あるき」や「日本料理講座」の開催、オンラインによる事業などを実施する。
2. 多言語による相談支援として、引き続き、ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語による日常生活相談を実施する。相談にあたっては、日常生活を取り巻く最新情報を入手し、適切に提供していく。なお、市内に在住する外国人の出身国籍の状況を見ながら、その他の言語による相談支援を検討していく。
3. 国際交流を行う団体との連携として、地域住民とのコミュニケーションを図るうえで、日本語の理解が重要であり、日本語教室の運営支援、日本語教室の指導者スキルアップ講座の開催を進める。また、今年度新たに開校した「真岡みらい日本語学校」と国際交流の面から連携を働きかける。
4. 姉妹校交流については、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況にあることから、今後もオンライン等を活用し、姉妹校との関係性の維持向上を図る。また、令和4年度にオーストラリア、ハーヴィー市の友好都市締結が予定されていることから、友好都市との交流を進める中で、二宮地区3中学校の姉妹校締結に向けた具体的な取組を進めて行く。

真岡市荒町5191番地
真岡市教育委員会学校教育課
電話 0285-83-8180
FAX 0285-83-4070